番組審議会
第６８６回

２０２４年１０月２１日

■ **審議会の構成**　委員総数　１０名

委 員 長　音　　好　宏

副委員長　江　澤　佐知子

委　　員　尾　縣　　貢　　萱　野　稔　人

喜田村　洋　一　　田　中　東　子

洞　口　依　子　　長　嶋　　有

水無田　気　流　　目加田　説　子

ＴＢＳテレビ　龍　宝　社　長

合　田　専　務

瀬戸口　取締役

三　城　コンテンツ戦略局長

荒　井　報道局長

曺　　「報道特集」編集長兼制作Ｐ

藤　田　編成考査局長

浜　崎　カスタマーサクセス室長

満　田　番組審議会事務局長

■　**議事概要**

１．審議事項

（１）「報道特集」

９月２１日（土）１７：３０～１８：５０放送分

（２）その他

２．報告事項

（１）番組種別公表制度に基づく

４月から９月までの放送実績について

３．事務局報告事項

（１）視聴者からの声

（２）次回審議会の議題及び日程

【審議番組について】（「報道特集」９月２１日放送分）

今年１０月で放送開始から４４年を迎えた、民放では最も歴史の長い報道番組。番組開始から掲げるモットーは「現場主義」「当事者主義」「調査報道に挑戦する」「賞レースを追わない」。毎週土曜日午後５時半から１時間半のＯＡ、うちその日のニュースが３０分、特集２本で１時間、という構成。

１本目の特集はその週の最大関心事。２本目の特集はディレクターや記者が関心を持っているテーマを取材し放送、ＪＮＮ系列局の作品も取り上げている。

この週、特集１では「自民党と旧統一教会　選挙支援の実態は？」、特集２では「沖縄“隠された”少女暴行事件」をそれぞれ取り上げた。

【委員の主な意見】

＜特集１について＞

□ 教団や議員事務所の元スタッフなどが、自民党と教会が利害の一致を見たというところからきちんと解説。どのような形で選挙に関わってきたのか非常に生々しく語っていて、ちょっと寒気がするような部分があった。

□ 朝日のスクープが出てから取材に入り、短期間で元信者の顔出しコメントも撮れたことは、この方との信頼関係で繋がっていたからだと思う。顔出し取材のインパクトは大きく、これを撮れたことは素晴らしいと思う。

□ 非常に短い期間で企画をまとめられたのは、これまで調査報道としてキャンペーンを続けていたが故。得た多くのネタを上手く組み合わせ、朝日とは別の視点を提示することができていた。

□ 一般の視聴者に政治にもっと関心を持って貰うためにも、こういうものにどんどん鋭利なメスを入れていくことが、ＴＢＳが報道として担っていくべき

点だと思う。いい取材をしていた。

＜特集２について＞

□ 取材力に感銘した。現場を歩き回って、多くの方に接触して、その事実や根拠を収集することはこの調査報道の原点だと思う。

□ 被害者少女に対するケアの視点を取り入れ、専門家のインタビューを挟みながら報じていた点はかなり新しい。長らく性暴力の問題に関わってきた女性たちが望んでいた形が実現されていた。

□ 渋谷でのインタビュー、６７年のモノクロ時代の映像と９８年の映像を出して今日につなげた演出に感心。映像の印象がとても強烈で、沖縄の問題と若者の関心の濃淡がビビッドに伝わった。

□ 沖縄の問題ではなく日米地位協定の問題。沖縄以外の基地では起きていないか。米軍側への取材もしてほしかった。本土対沖縄の問題にしてしまうと、人々の関心も根本的な解決にもつながっていかないように思う。

□ 途中から沖縄に無関心な日本に対する批判のようにトーンが変わっていたが、これでは若い人には届かない。問題意識に対する温度差の違いは当然あり、時代によっても変化する、その上で番組を作るのが本来の出発点ではないか、

□ ＢＧＭが気になった。音が鳴る度、愉快な気持ちになってしまった。報道番組で違う記憶を呼び覚ますようなＢＧＭを入れることは考えた方がよい。

＜番組全般＞

□ この番組を観て今後にすごく可能性を感じた。昔と今を比較できる私たち世代がこういう番組の価値を次世代にもっと有用に伝えていくにはどうしたらいいか考えた。

□ ＴＢＳが長年培ってきた取材の手法、どんな巨大な権力と対峙しながら報道続けているのか、デジタルツールを活用して聞けると、ジャーナリストを目指す若者がもっと増えるのではないか。

【局からの回答】

□ 朝日のスクープを追った点について。ジャニー氏の性加害問題のとき報道でなぜあれを取り上げられなかったのか、いくつかの要因の中に「他社のスクープを追いかけるのは恥」というこだわりがありそれを何とかしないと、という反省があった。朝日の記事が出た夜の「ＮＥＷＳ２３」で自民党総裁選候補者全員が旧統一教会問題は再調査しないと一致団結していたのを見て、この件を取り上げないのはあり得ない、と急遽追いかけることに決めた。

□ 報道の裏側をもっと知りたいというご意見については制作側もそう思っている。もの凄く考え、苦しみながらやっていることを発信したいと、学生への講演やＰｏｄｃａｓｔも始めている。